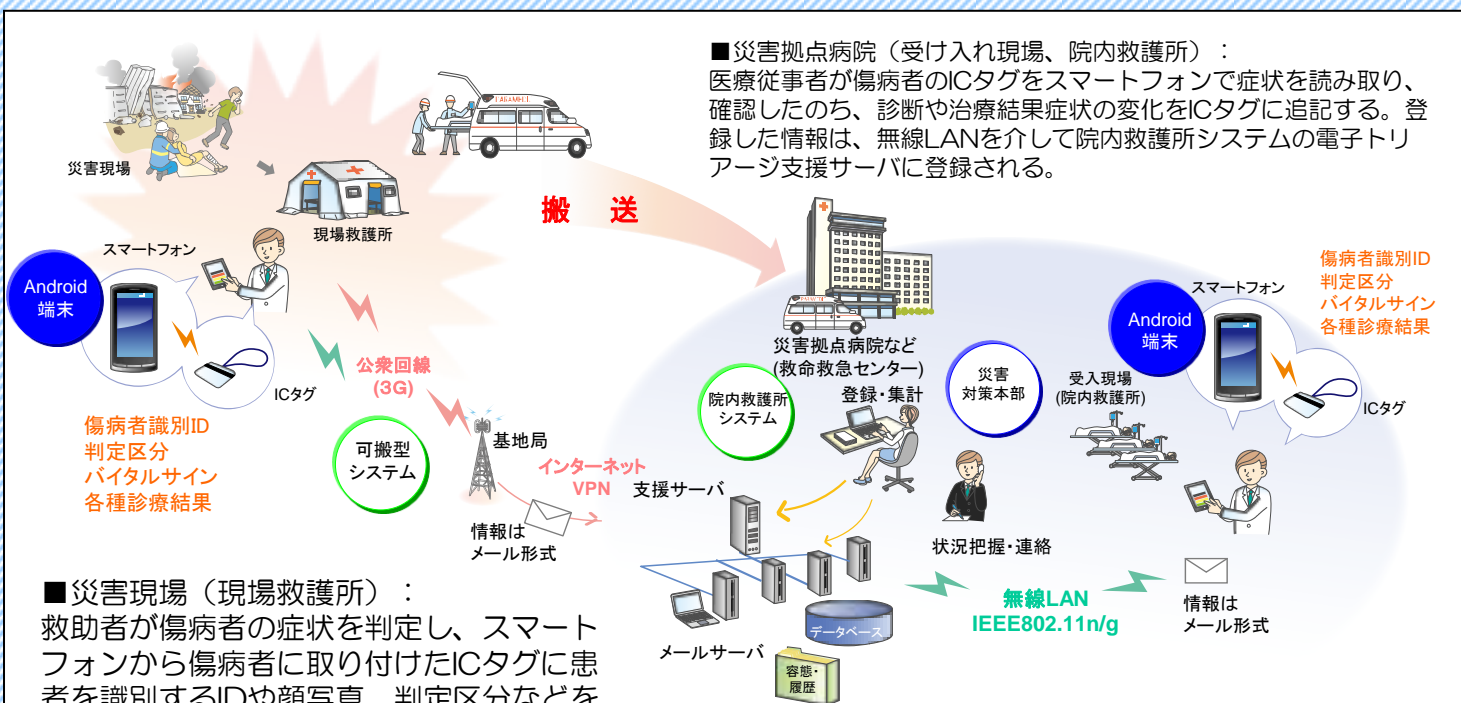


災害対応傷病者情報管理システム

全体構成



主な機能

- トリアージによる傷病者診断（START法、PAT法、バイタルサインによる評価を支援）
- 診断結果による疑い病名の確定支援
- 傷病者／医療関係者状況の把握（人数・場所など）
- 顔写真による身元不明者の安否確認支援
- 薬剤オーダー、画像検査オーダーなどの診療活動支援
- 血液ガス検査装置からの検査結果自動収集、配信
- 広域搬送判定支援、広域搬送カルテ印刷（DMAT標準帳票に準拠）
- 患者カルテ印刷
- クログジー登録・閲覧（動画、音声の添付も可能）
- 自治体、災害拠点施設、関係機関との情報共有
- 現場からのライブ中継（開発中）
- 自治体本部、災害拠点病院、広域搬送拠点（SCU）でのTV会議
- 広域災害救急情報システム（EMIS）との情報連携（将来）

概要説明

本システムは、大規模災害時や緊急時における迅速な医療提供を支援（患者情報の正確かつリアルタイムな情報収集と共有化）することを目的としたシステムです。

スマートフォンに表示するSTART法、PAT法のガイドに沿ってバイタル値の入力を行い、ICタグに書き込みを行うと、サーバにデータが転送され、一覧化及び関係者への情報共有ができる仕組みです。

仮に通信環境が不安定になっても、ICタグの情報を移送先のスマートフォンで読み出す事により、医師に正確な情報を伝える事ができ、災害時においても確実な情報伝達を支援します。正確な診療記録の維持や、傷病者全体に対する最も効果的な治療方針の決定など、広範囲の災害医療活動で適用が可能です。

広域かつ複数の場所で救助・医療活動が必要とされる状況において最もその威力を発揮し、災害初期時の診断・治療だけでなく、災害本部の活動や広域搬送など急性期におけるDMAT（Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チーム）の活動を支援します。